

第5回「利根大堰周辺の治水と環境検討会」 議事要旨

【会議概要】

日 時	平成28年3月3日(木) 13:00~16:30
場 所	利根大堰下流左岸/(独)水資源機構 利根導水総合事業所 説明ホール
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 現場視察 <ol style="list-style-type: none"> 1) 概要説明 2) 現場視察 3 議 事 <ol style="list-style-type: none"> 1) 規約(修正案)について 2) 掘削水路等による車両侵入抑止対策および水際再生ゾーンの整備について 3) その他 <ul style="list-style-type: none"> ・今後の予定について 4 閉 会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議事次第 ・ 席次表 ・ 検討会設立趣意書 ・ 検討会規約 ・ 検討会会員名簿 ・ 資料1 現場視察資料 ・ 資料2 利根大堰周辺の治水と環境検討会 規約(修正案) ・ 資料3 掘削水路等による車両侵入抑止対策および水際再生ゾーンの整備について(案) ・ 資料4 今後の予定について ・ 別添資料 第4回検討会議事要旨
出席者	<p>(団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新井 千明：NPO 法人熊谷の環境を考える連絡協議会 副会長 ・ 今村 武蔵：NPO 法人ふるさと創生クラブ 代表 ・ 岩田 薫：全国環境保護連盟 代表 ・ 島田 勉：NPO 法人行田ナチュラリストネットワーク 研究部長 ・ 橋本 恭一：NPO 法人行田ナチュラリストネットワーク 代表 <p>(行政)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 千代田町 環境保健課/建設水道課 ・ 明和町 環境水道課 ・ 行田市 環境課/道路治水課 ・ (独)水資源機構 利根導水総合事業所 管理課 ・ 利根川上流河川事務所 <p>(学識者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 浅枝 隆：埼玉大学大学院理工学研究科 教授 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利根川上流河川事務所 ・ (公財)日本生態系協会

【現場視察の様子】



集合地点



砂礫河原再生対象地付近



たまり池（右：当日確認されたニホンアカガエルの卵塊）



掘削水路付近



【会議の様子】



【内 容】(敬称略)

1. 挨拶 (利根川上流河川事務所 (以下、「事務局」という))

- 現場視察で見て頂いた通り、オフロード車やバイクが対策をとっていても、入ってきてしまっている状態。侵入防止がベースになると思っており、本日の資料でもその対策案を考えてきているのでご意見を頂きたいと考えている。
- 最終的な目標は、砂礫河原の再生と水際の再生なので、現地の砂分が多いという特徴も踏まえ、オフロード車等の効果的な侵入対策も講じながら、効率的・効果的な手順で最終的な目指す方向に向かっていきたいと思っているので、ご指導等お願いしたい。

2. 議事

1) 規約 (修正案) について : 資料 2

- 第 2 条の対象とする範囲に関しては、私たちの意見を反映して頂いていい形になったと思う。有難うございます。第 3 条については、学識者は助言だけでなく議事進行も務める座長になって頂く形を提案していた。第三者が座長をやった方がお互いに意見を出し合い方向性を確認しあっていく、ということでは本来の形だと思う。河川事務所は当事者なので、様々な問題を検討する中で多様な主体が意見を出し合ったものを取りまとめるような会議では、第三者的な人の方がスムーズに行くと思う。また、今日は時間がないので了解したが、アカガエルの産卵場所になっていた所で水資源機構の工事が既にはじまっており問題が生じている。2 度掘りの工事の反省をもとにこの検討会を開いているという経緯もある。第 3 条については、そういうことが無いようにとの意味も含めて、次回まで時間もあるので、学識者の先生方にも改めて働きかけをして頂くなど、次回までの課題として、ぜひ再検討をお願いしたい。(団体)
- 荒上の会議ではかなり早い段階から第 3 者的な方、荒上ではない立場の方が座長になって運営して頂いており、その方がスムーズに思っているので、座長には会員からの互選にするか第 3 者的立場の方を希望したい。(団体)
- 私も第 3 者的な方を座長として選ぶ形がいいと思う。(団体)
- 今后再検討し次回、改めて調整させて頂ければと思う。(事務局)

2) 掘削水路等による車両侵入抑止対策および水際再生ゾーンの整備について : 資料 3

- 今日、現地を見ながら、たまり池で卵をいくつも発見できた。大変な時期だとは思いますが、是非早急に保護の対応をお願いしたい。(団体)
- 卵は何かしないといけないが、柵で囲う方法と、すでにロープのあるところに移すという方法など、対応を考えていきたい。(事務局)
- どこから入るにしても、オフ車がアクセスする道は限られていると思うが、どこまで確認できているのか。土日のパトロール対策はどうしているか。ソフトの対策として示されている「侵入状況の確認」も非常に重要な対策だと思うので、しっかりやってほしい。(団体)
- オフロード車の連中は悪いとわかってやっているから看板などあっても関係ない。地元の自治会等にもお願いして、見かけたらすぐ 110 番をしてもらうようなことがいいと思う。へたに注意するのは危ないと思う。警察と連携をとった対応を進めてほしい。(団体)
- 車両侵入抑止対策が整備されていない中では、工事中にもオフロード車が入ってくると思う。オフロード車が工事中でも侵入している状況をモニタリングし、工事の進捗にあわせてどうなったのか、調査結果をこの場で教えてほしい。(団体)
- 工事用道路より川側だけで水路掘削等の工事を行う理由は何か。可能であれば堤防沿いの道も含めて、オフロード車等を入れないようにした方がいい。(学識者)

- p 3の図で「工事用道路」と書いてある辺りに、水路を造れないか。川側だけ低くしても、10～20年の間に元に戻ってしまうと考えられる。将来的にでもいいので、徐々に低くすることを考えてもいいのではないか。湿地の面積も広がるし、そうすることで自然再生のより大きな拠点になるのではないか。様々な背景があるとは思うが、可能であればそういったことも検討してほしい。(学識者)
- 掘削量が余りに膨大となるので、川側についてまずはやってみることにしたい。今考えている事でさえも思った通りにできるかということもあるので、ご提案は次のステップとして考えさせて頂ければと思う。(事務局)
- 検討するとしても、余りに堤防際だと洪水を堤防に近づける事になってしまう。治水上ある程度は堤防から離したい。(事務局)
- 我々が言っていたクリーク案を取り入れて頂いたのは有難く思う。ただ、現場を見て余りにも直線的で機械的な水路だと感じた。もう少し曲がりくねっていたりするのが自然らしいと思うし、できればワンドも何か所か作って頂けると生きものにやさしい水路や湿地が完成すると思う。その辺りの工夫をぜひお願いできればと思う。(団体)
- p 23のイメージ・イラストは、そのまま出来るかどうかは別として、現状の直線的な水路ではなく、どちらかというところの絵のようなものをつくりたいと我々も意識している。今後の現場の状況も見ながら進めていきたい。(事務局)
- 本来土曜日は工事をしないが、最近土曜日でも作業しているので、その間にはオフロード車は入ってこないが、日曜日には入ってきている。日曜日も月1回の巡視を行っているが、今後、工事業者の協力を得ながらできるだけ侵入状況を確認していきたい。また、場合によっては、皆さんのお力も借りながらやっていくことも考えていきたい。(事務局)
- 警察との連携については実際に行われているのか。(団体)
- 警察については、オフロード車等が堤防の法面を走行することで法面を痛め裸地化するので、河川管理施設の被害(器物損壊)ということで協議をはじめているところ。(事務局)
- 是非協議をして警察の協力を得た方がいいと思うのでよろしくお願ひしたい。(団体)
- 今村さんからも話があったが、ワンドのようなものが点々とあると、まさに湿地再生イメージになるのでよろしくお願ひしたい。(団体)
- 将来像は、p 23のイメージ図でも示せていないと考えている。それぞれの工事をはじめの際に皆さんと相談しながらやっていきたい。警察の話しやパトロールについても地域の住民の方々も一緒になって連携してやっていきたい。(事務局)
- 大堰からのフラッシュは、いつ頃からはじめることになるのか。(学識者)
- 掘削水路を通じたフラッシュということでは、水路の掘削を下流側からやっているので数年後になると思う。(事務局)
- 出水時のゲート操作については、K 1からではなく、K 4から開けるという事を考える余地はある。ただし、水機構は規定に基づいて操作するという立場にあるので、河川管理者の了解を頂くのが前提となる。また、何トン以上になったらゲートを開けるのかなど、詳細を検討するとともに、検証をしていきたい。(水資源機構)
- 昨年の出水では、砂が上流から出ていて堰近くが埋まっていた。注意しておく必要があると思う。フラッシュがうまくいけば、とてもいい環境になる。(学識者)
- C 4とC 3の間に魚道がありアユ、サケが遡上している。そういった所とも絡めて、総合的に考えてやっていきたい。(水資源機構)
- 現段階の掘削水路から川側の高水敷の盤下げと河岸際にあるマウンドの掘削については、ご了承を頂ければ3月下旬から掘削したいと考えている。少なくとも砂層までは出していきたい。(事務局)

- 掘削水路周辺及び利根川本川を見てアカガエルの卵がなければ進めていいし、あれば相談するなど水際は注意した方がよい。それさえすれば、基本的には問題ないのではないか。(学識者)
- (一同了解)
- 現場に設置する看板に表記する名称について、検討会の名前だけでなく皆さんの団体や市町等の名前も入れたいと考えている。(事務局)
- そうしてもらうことが、良いのではないか。(団体)
- 警察も含め、沢山の仲間でやっているという事を表示したいと考えている。(事務局)
- 警察の連名に了解がとれれば、皆さんの団体等の名称と連名で、とれなければ検討会の連名で表記する方向でよろしいか。文面を含めて、改めてご相談させて頂きたい。(事務局)
- 上中森・下中森地区の方々から、以前は車等の乗り入れについて役場の方によく苦情が寄せられていた。最近は余りないが、過去には道を封鎖しようとしたこともある。地元からすると、今回の取組みは大変有難い話だと思っている。地元にも是非周知した方がよい。周辺住民は誰も今回のこの取組みを知らないと思う。町のホームページや広報誌等で住民に周知したいと思うので、ぜひご協力をお願いしたい。(行政)
- 最近苦情が少ないというのは、あきらめているということもあるかもしれない。情報を共有するので、町からもアイデア等あればお願いしたい。連携して進めていきたい。(事務局)
- 予算との関係もあると思うが、少しでも早く湿地整備を進めて貰えるとよいと思う。スケジュールについても早めにやって頂くことについては全く賛成。現段階の掘削水路の形状は、本川と合流する水路部分が急角度になっているが、手前を掘削することによって、掘削の影響も分かってくる。それを受けて計画を修正するというのもあると思うので、下流部の掘削は早めをお願いできればと思う。(団体)

3) 今後の予定について：資料4

- 平成28年度は、7～9月かけて第6回を、12～1月頃に第7回の検討会を開催することを考えている。掘削については、本日の確認を踏まえて実施していきたいと考えている。(事務局)
- 工事の進捗にもよるが次回検討会でも現場を見て頂くのもよいかと考えている。(事務局)
- 水路ルート掘削はいつ頃までに終了予定か。(団体)
- 早くても3年位はかかるかと考えている。(事務局)
- 洪水が1回あると洪水によって削られる効果もあったり埋まったりもするので、将来的な予測はたてにくく、かなりフレキシブルに考えざるを得ないのではないか。(学識者)
- 検討会は年2回だが途中で工事に変更等があれば文章等で情報提供をお願いしたい。(団体)
- 工事進捗も含めてお知らせできるようにしたい。(事務局)

4) その他

- 右岸(行田市側)の堤防拡幅は、いつ頃から行うのか。(団体)
- 大堰に近接する堤防の前腹付けの工事は、現在発注中。3月位から工事に入りたいと考えている。堤防拡幅は、用地買収もあるので、まだ時期は決まっていない。(事務局)
- 現在、用地買収のための説明を地元に行っているところなので、用地交渉次第になる。(事務局)
- 地域の情報もあれば、是非お寄せ頂きたい。予定通りであれば、来年度夏頃に次回の検討会を開催したいと考えている。(事務局)

以上